

令和2年2月18日

日光市議会議長 斎藤伸幸様

日光市議会議員 瀬高哲雄

## 議員派遣報告書

目的 (会議等の名称)	「決算状況・歳出」 「決算状況・財政収支」
会議等の 主催者の名称	地方議員研究会
場 所	名称等：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター 住 所：東京都中央区八重洲 1-2-16TG ビル
期 間	令和2年2月5日（水）・6日（木）
会議等の内容	別紙資料のとおり
会議等の 所感・成果等	「決算状況・歳出」 「決算状況・財政収支」 今回の「決算状況・歳出」「決算状況・財政収支」の研修では、自治体で作成している決算カードを活用して、各自治体の財政状況の判断、更には、他自治体との参考比較を学んだ。幾つかの要点は下記の通りである。  まず、財政収支の根底となる部分は、歳入における一般財源の確保であり、各自治体が自由に使える財源を、単年度でどの程度、確保されているかを、過去数年の推移を見比べることが必要である。加えて、繰越金の増減も、確認が必要で

ある。

その上で、決算カードにおける、歳出では「目的別歳出」と「性質別歳出」の違いを念頭に、収支の判断をしなければならない。特に人件費や建設費等、経費の経済的な性質ごとに歳出を分類した「性質別歳出」は、自治体の財政状況を分析する上で不可欠なものであり、決算カードの中でも注視をしなければならない。例えば、教育費の決算額が伸びた根拠として、教育に関わる政策的経費なのか、それとも校舎や体育館の整備に要する、インフラ経費なのかは、性質が大きく異なる。しかし、「目的別歳出」では、教育費として一括りに提示をされる為、これは「性質別歳出」の数字で判断をしなければいけないことになる。

次に決算カードにおける、財政収支状況では、①実質収支、②単年度収支、③積立金取り崩し額、④実質単年度収支を関連づけた上で、判断する必要がある。

特に④実質単年度収支の金額は、単年度収支に当該年度に措置された黒字要素および、赤字要素を除外した、実質的な単年度収支の額であり、この赤字金額が大きく、更に数年間に渡り推移していく場合は、好ましくない状況と言える。

一方で、全国自治体の6割が、実質単年度収支の赤字団体である。これらの判断は難しく、黒字を維持する為には、新たな市民サービスを生み出さず、新規事業を実行しなければ、黒字を維持できるが、見方を変えれば、市民サービスの低下に繋がるとも言える。望ましい形は、赤字と黒字が単年度ごとに交差していくことが、健全な自治体運営と言える。

その他、研修内容として「積立金」と「公債費」等、各種財政指標の判断基準、令和2年度の国と関わる、地方財政対策のポイントとして、「地域社会再生事業費（仮称）」「緊急浚渫推進事業（仮称）」等の説明、地方歳出の重点項目として、「地域社会再生事業費（仮称）」「森林環境譲与税」等の説明を受けた。引き続き、これら研修で受けた内容を議員活動に活かしていきたい。